

2026 年度F2B 日本選手権における競技運用・安全規則について

※競技運用

1. 飛行順

1次予選および2次予選の飛行順は、各ラウンドとも主催者が抽選により決定します。

2. 決勝飛行順

決勝の飛行順は、2次予選の成績順とし、最下位の競技者から開始して最上位の競技者で終了します。

また、各ラウンドとも同一の順序とします。

3. 飛行開始の手順

1)引張試験

引張試験は、試験官の呼び出しを受けて実施してください。

試験に合格した競技者は、飛行順に機体を待機場へ整列させてください。

飛行サークルへの入場を円滑に行うため、ご協力をお願いします。

2)飛行サークルへの入場および準備時間

予選ラウンドの第1アテンプトを含め、飛行サークルへの入場から飛行準備完了までの時間は2分30秒とします。

呼び出しは、前競技者の着陸演技終了後、ジャッジによる採点が完了した時点で行います。前競技者は、着陸演技終了後、速やかに飛行サークルから退出してください。

呼び出しから2分30秒以内に、飛行開始の合図を計時員に送ってください。

飛行開始の合図がないまま2分30秒を経過した場合は、その時点で飛行時間の計測を開始します。(飛行開始の合図を行った場合と同等の扱いとします)。

3)ジャッジの移動

上記の準備時間には、ジャッジ位置の指定およびジャッジの移動時間を含みます。

ジャッジの移動に必要な時間を考慮して位置を指定してください。また、ジャッジが移動を完了し、安全を確保するまでは飛行を開始しないでください。

なお、ジャッジの移動完了前に準備時間を超過した場合であっても、飛行時間の計測は開始されますが、飛行を開始することはできません。

4) 飛行時間の開始

全てのラウンドにおいて、競技者は飛行時間の開始を明確な合図によって計時員に示してください。

計時員が飛行時間の開始の合図を確認できない状態でエンジンまたはモーターを始動した場合は、そのアテンプトを宣言したものとみなします。

4. ジャッジの移動範囲

ジャッジが一つの演技から次の演技までの間に移動できる範囲は、1/8周以内とします。移動については各ジャッジの判断によります。

5. 競技中の練習飛行

競技中の練習飛行は、主催者が指定した場所でのみ認めます。

6. コンコース賞

当面の間、コンコース賞は休止します。

※安全規則

1. 安全確保について

競技会期間中は、全ての参加者が安全確保に十分配慮し、安全な競技運営にご協力ください。

また、参加者の起こした事故に関する責任は当該参加者が負うものとします。

2. 飛行制限

日本選手権大会会場およびその周辺では、コントロールライン機以外の飛行を禁止します。

コントロールライン機は、主催者が許可した時間帯および場所に限り飛行できます。

3. 失 格

競技の安全または運営に関して次の行為が認められた場合は、当該選手および助手を失格とします。

失格となった場合、それまでに獲得した得点および順位は全て無効とし、その後の競技への参加は認めません。

1) 受付時に模型飛行士登録の提示がない場合、または提示された登録証の有効期限切れ等が確認された場合。

2) 競技会期間中に危険と認められる機体、ワイヤー線等を使用した場合、または故意に使用しようとした場合。

なお、危険事案に該当するかどうかは競技委員長が判断します。

3) パイロットがスタートの合図を行い、機体が助手から離脱した後、着陸演技を終了する前に、故意・過失を問わずコントロールハンドルから手を離した場合。

4) 飛行禁止時間帯または飛行禁止サークルにおいて故意に飛行した場合。

5) セーフティストラップを手首に繋がらない状態で飛行した場合。

6) その他、危険と見なされる行為、競技進行の妨害、または他の選手の飛行を妨害する行為があった場合。

4. 模型飛行士登録番号(JPNナンバー)及び機体識別コード

1) 模型飛行士登録番号(JPNナンバー)は、右主翼上面に文字高さ25mm以上で表示してください。

機体検査時に当該表示がない場合は、参加資格取り消します。

また、飛行中に当該表示が脱落した場合は、落下物として扱います。

2) 模型飛行士登録番号(JPNナンバー)は、競技者本人に登録された番号を表示してください。

3) 機体識別コードは、競技者ごとに参加機1機につき1種類の識別記号を設定し、機体に10mm以上の大きさで表示することを推奨します。

なお、分割式の機体については、分割された各部分に識別コードを表示する必要はありません

5. 電動機の事故防止措置

1) 電池を接続した状態では、パイロットまたは助手が機体を保持してください。
違反した場合は、離陸点または着陸点を0点とします。

2) スタート合図は、機体を出発位置に置き、電池を接続した後、速やかに行ってください。

① スタート合図をする前に、スタートスイッチをONにしないでください。

② 遠隔起動・停止スイッチを使用する場合は、電池を接続した後、パイロットが機体から離れる前にスタート合図を行ってください。

3) 離陸時は、プロペラが回転を開始したことを確認するまで、助手が機体を保持してください。

4) 飛行時に電池接続ケーブルを機体内に格納する場合は、待機中に機体の電池交換用ハッチを開けておいてください。

また、電池接続ケーブル2本のうち、少なくとも1本は未接続の状態にしてください。

電池接続ケーブルを機体外に出している場合も、待機中はケーブル2本のうち少なくとも1本を未接続の状態にしてください。

5) 飛行中の機体にトラブルが発生した場合は、パイロットまたは助手が遠隔起動・停止スイッチを使用し、モーターの緊急停止に努めてください。

6) 公式飛行・練習飛行を問わず、電池接続ケーブルは機体を出発位置に置いてから接続してください。

7) 機体が着陸して停止した後は、助手は速やかに電池接続ケーブル2本のうち少なくとも1本を取り外してください。

助手がケーブルを取り外すまで、パイロットはセーフティストラップを外したり、コントロールハンドルから手を離したりしないでください。

違反した場合は、そのラウンドの得点を0点とします。

8) 地上テスト時および出発位置に機体を置いた場合を除き、不要な電池接続は行わないようにしてください。

- 9)電池の充電および保管は製品の取扱説明書に従い、安全に十分配慮して行ってください。

6. 騒音試験

騒音試験は、FAI規定に準拠して実施します。

競技中に大会役員が必要と認めた場合は、公式測定を行います。

測定試験に不合格となった場合は、そのラウンドの得点を0点とします。

許容される最大値は、コンクリート面での測定が96dB、草地での測定が94dBです。

7. コントロールライン用ワイヤー線

1) 引張試験

①ワイヤー線はFAI規定に準拠し「機体重量の10倍」を1Kg単位で切捨てた荷重で引張試験を行います。(加重は上限を設けません。)

②引張試験は、パイロットおよび助手が備え付けのはかりを使用して規定荷重を加え、引張試験官が合否を判定します。

***今年度から試験官は引張りません、パイロットと助手で行ってください。**

③引張試験でワイヤー線等が断線した場合は不合格とし、そのワイヤー線等は競技には使用できません。

ただし、代替ワイヤーを準備して再試験を行い、合格が確認された場合はその限りではありません。

2) ワイヤー線の使用制限

次のいずれかに該当するワイヤー線は使用できません。

①より線の「より」が一部でも戻っているもの。

②さびが発生しているもの。

③手のひらで滑らせた際に引っ掛かりがあるもの。

④キンク、または半径20mm以下の曲がりがあるもの。

8. コントロールハンドル

セーフティストラップの取り付けおよび引張試験

1) コントロールハンドルにはセーフティストラップを取り付け、ハンドルとパイロットの手首を結んでください。

セーフティストラップには十分な耐切断荷重を有するロープを使用し、コントロールハンドルに必要な強度を確保したうえで取り付けてください。

2) セーフティストラップについても、コントロールライン用ワイヤー線の引張試験荷重と同等の引張試験を実施し、引張試験官が合否を判定します。

引張試験でセーフティストラップが断線した場合は、そのコントロールハンドルを不合格とし、競技には使用できません。

ただし、セーフティストラップを整備して再試験に合格した場合、または代替

のコントロールハンドルで引張試験に合格した場合は、この限りではありません。

9. 本大会における禁止事項（日本模型航空連盟共通規定より抜粋）

次の行為を禁止します。

- 1)故意による危険飛行
- 2)大会競技中におけるアルコール飲料、禁止薬物および違法薬物の使用
- 3)大会参加書類への虚偽記載
- 4)正式な異議申立て以外の大会役員等に対する威嚇・中傷行為
- 5)スポーツマンシップに反する行為

10. 会場の利用に関する規定、注意事項

- 1)飛行可能時間は8時30分から16時30分までです。

時間外の飛行とエンジン調整を禁止します。

- 2)公園内は全て火気厳禁です。

- 3)公園内は外周道路を含めて全て禁煙です。

- 4)広場およびグランド内はテントの設置は禁止です。

テントを設置する場合は、広場およびグランドの周辺に設置してください。

（「いきいきパーク岬会場について」を参照）

* 付録:コントロールライン用ワイヤー線 等についての参考情報

1. ワイヤー線等の端末処理

コントロールライン用ワイヤー線は、単線・より線ともに、両端へ3mm以上の径を持つグロメットを取り付けることを推奨します。

また、末端処理は次の方法を参考にしてください。

1) 単線

単線は少なくとも12mm以上の長さにより針金等を巻きつけるなどして十分に固定したうえで、はんだ付けを行うことを推奨します。

また、グロメットとハンダ付け部分との間を約10mm離し、グロメットが自由に回転できる構造とすることを推奨します。

2) より線

より線は折り返し部分を設け、十分な長さにより針金等を巻きつけるなどして、しっかり固定することを推奨します。

エポキシ系接着剤や瞬間接着剤は、より線の柔軟性を損なうおそれがあるため使用しないでください。

2. コントロールハンドル

1) コントロールハンドルにリードアウトワイヤーが取り付けられている形式の場合は、ワイヤー出口部分でリードアウトワイヤーをパイプ等により保持する構造とすることを推奨します。

なお、リードアウトワイヤーは接着剤等で固定しないでください。

2) コントロールハンドルにフックを用いて直接ワイヤー線を接続する形式の場合は、ワイヤー線端末またはフックが自由に回転できる構造にすることを推奨します。

3) セーフティストラップには、クレモナロープやナイロンロープなど、十分な強度を有するものを使用してください。

ロープの太さは4～5mm以上を推奨します。